

東京スタイルの新たなM&Aは「goa」

TSI ホールディングの連結子会社である東京スタイルは、M&Aによる成長戦略の一環として、「goa」「goa MEN'S」「panaji」「manics」の4ブランドを展開するウエイブ インターナショナル（佐伯嘉信・社長）の株式約80%を取得し子会社化した。ウエイブ インターナショナルは、「goa」「goa MEN'S」を主力ブランドに、ファッションビルやSCなどで全国に47店舗を展開するとともに、セレクトショップへの卸、ネット通販を展開し、2011年8月期の売上高は対前年比109.5%の45億7000万円、営業利益同112.9%の1億8400万円、経常利益同120.0%の1億8000万円だった。ウエイブ インターナショナル社は佐伯社長（47）が1996年に設立し、株式の95.56%を保有する。佐伯社長は、「ここまで伸ばしてきたが、今後は大きな先行投資をしていかなければ、次のステージである売上高100億円を実現できない。東京スタイルと組むことで、原点に戻って、大きな夢を実現したい」と語る。

「goa」「goa MEN'S」は、F1層及びM1層からの支持が高く、「遊牧民」をイメージしたナチュラルカジュアルスタイル&ヴィンテージカジュアルスタイルをコンセプトとし、F1層の中でもファッション感度の高い顧客層が多い。今後、東京スタイルの保有する経営資源を活用し、国内及び中国を始めと

したアジアでの事業を拡大していく。中島芳樹・社長は「ファッションビルなどの都市型商業施設には当社だけでは攻めきれない。グループの中にF1層を主力とする企業はあるが、ウエイブ インターナショナル社とはテイストが異なる。現状のところ、F1層を対象とした企業のM&Aは週上に上がっていないが、今後も、グループで手薄な紳士服や小物雑貨、小売りチェーンオペレーションのノウハウを持っている企業や中国・アジアなどの企業をM&Aしていきたい」と語る。現在、海外及び国内でM&A案件の交渉を進めている。

M&Aによる事業拡大だけでなく、同社では新ブランドも「レベッカ ミンコフ」「ケイタ マルヤマ トウキョウ パリス」「オドラント ナノ・ユニバース」と相次いで

発表しているが、中島社長は「本業重視で、百貨店市場の活性化にも取り組みたい」と語る。

事業拡大の一方で、今年6月1日付でサンエー・インターナショナルとの共同株式移転で設立されたTSIホールディングスでは、現在グループストラクチャーに取り組んでいる最中だ。経理、人事制度、物流の一元化などを進めている。また、東京スタイルの中国工場での生産や中国の販売網の活用、サンエー・インターナショナルのネット通販「セレクトソニック」での販売などに取り組んでいる。これら両社の強みについても、グループ会社で活用していく方針だ。

Editor's Check

東京スタイルは、2011年になってから、3月にフィット（「ザ・ファースト」）、5月にローズバット・エレファント、9月にアルベージュと積極的にM&Aを進めてきた。いずれも経営陣はそのままだ。今回も佐伯社長を始めとする役員が引き続き経営に当たるが、こうした同社のM&Aに対する企業方針及びオペレーション能力と選択眼への評価は高い。今後さらにM&Aを続けるだけの資金背景もある。



遊牧民がイメージの「goa」（左）とリアルクローズの「panaji」